

## 「木場の窓から見えるもの(元外交官の視点)」

当社顧問石井正文氏(前駐インドネシア日本国大使)による  
気になる海外情報を原則第2、第4木曜日に配信しています。

第48回:スーダン内戦の意味

2023年5月11日配信

### 【ポイント】

- アフリカの大国であるスーダン内戦は、種々の思惑を持つ外国勢力が介入する複雑な問題
- 特に、ロシアのアフリカへの影響力の更なる伸長に繋がることが最大の懸念

### 【本文】

#### ■スーダンはアフリカの大国

- ・国土面積は世界15位
  - アフリカ中、アルジェリア、コンゴに次ぐ3位
  - インドネシアより少し小さく、日本の約5倍
  - フランス、ドイツ、スペイン、イタリアの合計よりも大きい！
- ・人口は世界31位で4700万人弱
  - アフリカ中、ケニアに次ぐ8位

#### ■対立しているのは、双方共、国の軍事組織＝2人のボスの間の勢力争い

- ・ブルハン国軍司令官：
  - 2019年4月の第一回クーデターでバシール大統領を失脚させ実権掌握
  - バクムド首相の元で民政移管を進めるも、民主化勢力と対立し、2021年10月に再度クーデターを主導、名実ともに権力掌握。
- ・ダガロ即応支援部隊(RSF)司令官：
  - 政府のNo2。RSFは元々はバシール政権により反政府組織弾圧を目的として作られた民兵組織だが、その後準軍事組織として軍の傘下に
  - 2021年のクーデター後、国連などの仲介で民政移管協議が進められてきたが、その中で軍再編等も議論。RSFはこれに強く反発

#### ■ただ、それへの外国勢力の介入が物事を複雑化している

- ・国軍に対しては、エジプトが支援
  - 歴史的には、スーダンはエジプト(イスラム圏)と英国(英語圏。現南スーダン)の分割・共同統治  
＝スーダンに対するエジプトの影響力は伝統的に大きい
  - エジプトは既に国軍に対して戦闘機とパイロットを派遣し、空軍優勢を支援

- ・RSFに対しては、ロシア他が武器供与を持ちかけているとの報道(WSJ)あり
- ロシア(ワグネル・グループ)のオファーには携帯型対航空機ミサイルを含むが、今のところ、RSFは慎重対応の模様。
- 他にも、ロシア・UAEの支援を受けるリビアの民兵組織(東部を支配するハフタル将軍派)から既に弾薬共有を受けているとの報道もあり

■やはり最大の懸念はダガロRSF司令官と緊密な関係を持つロシアの対アフリカ影響力伸長

- ・ロシアは以前からスーダン紅海沿岸のポート・スーダン(PS)内に海軍基地を25年契約でリースすることを計画。スーダン政府の最終承認を待っている状況
- そうなれば、ロシアはスエズ運河とインド洋へのアクセスを得る
- 同港はジブチにあるアフリカ唯一最大の米軍基地の1000km北方
- ・米軍は、ロシアが同港をスーダンや中央アフリカからの金、レアアース他の輸出にも活用する意図を持っていると分析。WSJ報道によれば以下の通り(当時者は否定)。
- ワグネルのオーナーでもあるプリゴジンが保有する会社が長年に亙りスーダンで金探鉱を実施＝ウクライナ戦争等の継続資金源確保にもつながっている
- 同社は探鉱地域防衛をRSFに依存。見返りにワグネルはRSFに武器・訓練を提供
- スーダン関係者によれば、ロシアの投資でスーダンの金生産量は5年前の年間30tから2021年に100tに増加。内70%は(UAE経由で)ロシアに輸出

■スーダンの紅海沿岸は海上交通の要衝でもある

- ・スーダンの紅海沿岸の港湾施設はサプライチェーン上非常に重要
- スーダン+南スーダン(内陸国)の石油資源の唯一の積み出し港(約13.5万B/D)
- 鉱物資源豊富な中央アフリカの内陸国(チャド、中央アフリカ等)の主要輸出入港
- ・昨年12月にはUAEベースのコンソーシアムが60億ドルの新港開発契約に署名

■エジプトにとってスーダンはエチオピアとの間のナイル川水利権問題対応のための同志

- ・エチオピアはナイル上流に巨大ダム建設を計画
- 実現すればエジプトの水供給・農業生産に大きなマイナスの影響
- エジプトは反エチオピアのために、同じく影響を受けるスーダン政府と協働したい

■湾岸諸国(特にUAE)にとっては、スーダンは農業生産拠点他の意味もある

- ・UAEはスーダンのナイル川沿岸に広大な農地を購入し農業生産実施(サウジも同様)
- ・UAEはまた、イエメン内戦でRSFを動員＝ダガロRSF司令官を支援

(以上)